

県指定有形文化財(昭60.6.18)

ぼん しょう  
**梵鐘**

きゅう いっ びん ぶん げん しょう  
**(旧一品権現鐘)**

1口 総高65.2cm 口径49.8cm

沖縄戦を  
くぐりぬけてきた  
鐘なんだね。



もともと沖之宮は、今の那覇港のところにあったんだ。いつ建てられたかは不明だけど、1681年に板葺きから瓦葺きに変えたという記録があるよ。



## 琉球八社沖之宮にあった鐘



梵鐘(旧一品権現鐘)



欠損した竜頭(旧一品権現鐘)



撞座(旧一品権現鐘)

一品権現は、『琉球国由来記』(1713年)によれば、正式には「本州一品三所大権現」と呼ばれる熊野権現系の神社で沖山臨海寺にありました。社寺の由来によれば、「昔、那覇の港に光っているところがあり、城中からこれを見た国王が漁師に取らせたところ古木であった。普通の木とは異なる霊木で、次の夜には光の気配が失せていたため、候補地を占って霊社を建てたところ、神の霊力が盛んになった」ということです。

『琉球国旧記』(1731年)には、一品権現と同時に臨海寺も創建されたと記されています。東恩納寛惇の『南島風土記』(1950年)によれば、

一品権現と臨海寺は通堂から三重城に向かう長堤の途中にあったが、1908(明治41)年、築港工事のため、寺は垣花に、権現祠は真和志村安里八幡境内にそれぞれ移りました。権現祠は沖之宮と称し、社殿は1938(昭和13)年に国宝指定されますが沖縄戦で焼失してしまいました。

この鐘は、沖縄戦で竜頭とその他の部分が欠損しています。鐘銘には、1459(天順3)年に鑄造されたこと、奉行与那福、大工花城と刻まれています。

県指定有形文化財(昭60.6.18)

# 梵鐘

## (旧天界禅寺鐘)

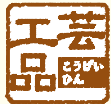
1口 総高91.0cm 口径49.3cm



天界禅寺は今の首里城近くの首里杜館のところにあったんだね。



15世紀に作られて、金武にある観音寺に伝わったんだけど、どうして観音寺にあるのかは不明なんだ。



## 第一尚氏の菩提寺に架けられていた鐘



龍頭(旧天界禅寺鐘)

梵鐘(旧天界禅寺鐘)

天界禅寺は、第一尚氏の尚泰久王(在位：1454～1460年)が創建し、溪隠安潜が開いた第一尚氏の菩提寺です。首里城の西側に位置し、守礼門の南側から玉陵にいたる広大な敷地をもち、明治末期まで存在していたと言われています。『球陽』(1745年)には、尚徳王が即位6年目(1466年)に「大きな鐘を鑄造して

天界寺に掛けた」と記されています。1466年は鐘銘の「成化二年」と一致しますので、『球陽』の記述はこの鐘の事だと考えられます。その後1713(康熙52)年の時点では、鐘は波之上の護国寺に移っており、1929(昭和4)年以降、金武観音寺に移されたということです。この鐘は、沖縄の仏教史を考える上で貴重な資料です。

県指定有形文化財(昭60.6.18)



今でも昔通い  
見ることが  
できるんだあ。

今は糸満市生涯学習支援  
センターの中にあるよ。旧  
竜翔寺は、今の波の上宮  
の近くにあったんだよ。下  
の方に、沖縄戦の時に受  
けた弾の跡があるよ。



# 梵鐘 (旧竜翔寺鐘)

1口 総高87.2cm 口径54.4cm



## 糸満の人々に時を知らせた鐘



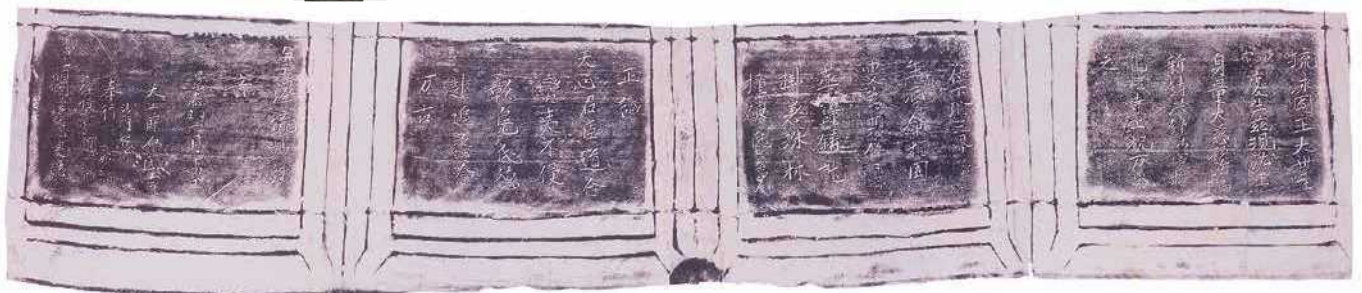
梵鐘(旧竜翔寺鐘)



竜頭(旧竜翔寺鐘)



撞座(旧竜翔寺鐘)



■旧竜翔寺洪鐘銘【拓本】 沖縄県立図書館所蔵 CC BY 4.0  
(<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)

竜翔寺は、袋中上人の『琉球神道記』  
(1605年)では「観世音菩薩道場」の一つに  
なっており、約100年後に刊行された『琉球  
国由来記』(1713年)では、本尊を観音菩薩  
としながらも廃寺と記されています。

東恩納寛惇の『南島風土記』(1950年)にあ  
る安政年間(1854~1859年)の記録には、護  
道院や海蔵院と並んで竜翔寺の名があり、いつ

頃廃寺になったのかははっきりしません。  
鐘銘から「景泰丁丑」、つまり1457(景泰  
8)年に鑄造され、奉行は与那福、中西であっ  
たことが判ります。

この鐘は、明治末期に時を知らせる鐘とし  
て糸満に寄贈されましたが、戦後の一時期は、  
市内にある「山巔毛」の拝所内に安置されて  
いたと言われています。

県指定有形文化財(昭63.1.12)

ぼんしょう きゅうだい あんぜんじ しょう  
**梵鐘 旧大安禅寺鐘**  
いちめい ごこくじ かね  
**(一名 護国寺の鐘)**

1口 総高102.5cm、口径62.0cm



アメリカの  
海軍学校に  
あったんだね。

海軍学校では、ラグビーの  
試合の際に鳴らしていたら  
しいよ。



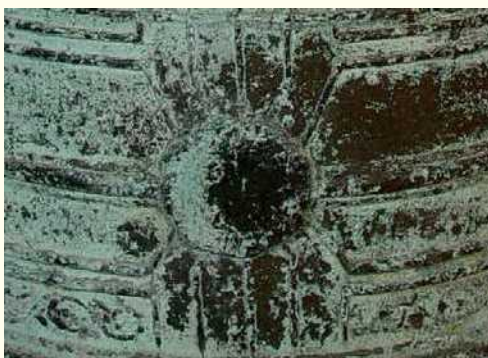
## アナポリスから沖縄に里帰りした鐘



①梵鐘(旧大安禅寺鐘)



竜頭(旧大安禅寺鐘)



撞座(旧大安禅寺鐘)

1456(景泰7)年に尚泰久王は、大工の藤原国光に銅鐘を鑄造させ、大安禅寺に寄進しました。大安禅寺は1430(宣徳5)年に、明国の使者柴山が琉球滞在中に建立したものです。創建の経緯については『大安禅寺碑記』に詳しく記されていますが、場所は定かではありません。大安禅寺はやがて廃寺となり、その跡地に波上山護国寺が建てられ、鐘も護国寺に伝わ

ったため、「護国寺の鐘」と呼ばれるようになりました。

1854(咸豊4)年7月、王府は琉米修好条約の締結を記念して、この鐘を米国全権大使ペリー提督に贈りました。その後、約1世紀にわたり、米国アナポリス海軍兵学校に保管されていました。米国政府は沖縄側の強い要望に応じて、1987(昭和62)年7月に沖縄県に寄贈しました。

県指定有形文化財(平2.2.6)



誰が持って  
行ったんだらうね。  
戻ってきて  
良かったね。

詳しいことがわからない永  
福寺が琉球にあったとの証  
拠なので、宗教史を知る上  
では貴重な鐘なんだ。



# 梵鐘 (旧永福寺鐘)

1口 高88.3cm 口径54.0cm



## 謎の寺、永福寺実在の証



①梵鐘(旧永福寺鐘)



■ 竜頭(旧永福寺鐘)



■ 撞座(旧永福寺鐘)

永福寺は、『琉球国由来記』(1713年)や『琉球国旧記』(1731年)に詳細が記載されておらず、早い時期に廃寺になったと思われます。鐘については、1925(大正14)年に東京で開催された「琉球芸術展示会」に琉球の美術工芸を代表する作品として出品されたことが図録に記載されています。この鐘は沖縄戦の渦中に所在が不明になっていましたが、戦後米国に現存することが判明し、1989(平成元)年5月に米国の

民間人によって沖縄県に寄贈されました。

この鐘は尚泰久王代の1456~1459(景泰7~天順3)年に铸造された梵鐘24口の内の一つで、鐘銘によれば1457(景泰8)年に铸造され、奉行智賢、巴那覇、大工藤原国義、永福寺住持三省、撰文・安潜の名が刻まれています。沖縄文化史の中で、特に宗教史を知る上で貴重な資料です。

(写真提供: ①沖縄県立博物館・美術館)



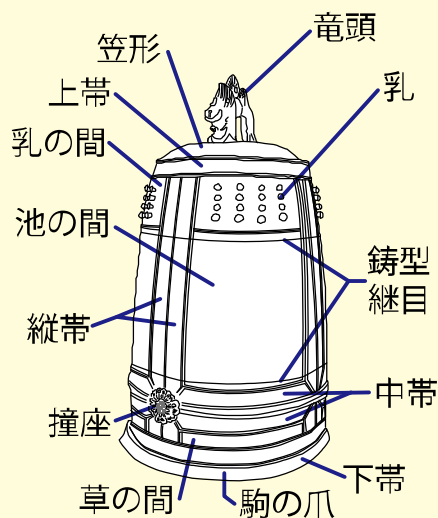
みなさんの家の近くにお寺はありますか？

もし近くにあるのでしたら、朝一番に鳴る鐘の音を聞くことができるでしょう。「ゴーン」と鳴り響く荘厳な音を聞いて、一日のスタートを切るのは気持ちがいいものです。また除夜の鐘の音は、一年の終わりと新年を迎えるにふさわしいものです。除夜の鐘を聴き、年賀状を読んで、正月気分を味わう人も多いことでしょう。

このように、私たちにとってお寺の鐘の音は、時刻を知らせるとともに、新たな節目を意識させてくれるものでもあるのです。

それ以外にも、お寺の鐘には、「願いをこめる」という役割があるのを知っていますか？141ページのコラムにあるように、平和を願うために、為政者がお寺に鐘を寄進することがあり、琉球国では尚泰久王が有名です。その他にも第二尚氏の菩提寺を建立した尚真王は、同時に円覚寺殿前鐘、殿中鐘、楼鐘を鑄造しています。これらの鐘の銘文は、尚真王の治世の素晴らしさを称えています。いずれにしても、お寺の鐘(梵鐘)は、人々の安寧と国家の安泰を願いながら造られたものと考えていいでしょう。

さて、尚泰久王と尚真王が鑄造した梵鐘は、いずれも日本鐘と変わらないものでした。建立した禅寺そのものが、当時の仏教の中心であった京都から招いた禅僧であったことと関係しています。そこで、梵鐘を製作した鑄物師とその特徴を挙げてみることにします。



●旧首里城正殿鐘(藤原国善)

大ぶりの宝珠(龍頭)と、唐草を表した上帯と草の間。



龍頭



上帯と草の間



【参考資料】

坪井良平、2019年、『日本の梵鐘 新装版』、吉川弘文館  
 国立文化財機構東京国立博物館他、2010年、『日本の美術』、ぎょうせい

●旧円覚寺殿前鐘・殿中鐘・楼鐘(大和相秀)

竜頭は丈が短く先端がとがった形の火焰宝珠、幅広い八弁蓮華の撞座など。



竜頭(左から旧円覚寺殿前鐘・殿中鐘・楼鐘)



撞座(左:旧円覚寺殿前鐘・中:殿中鐘・右:楼鐘)

●旧普門禅寺鐘・旧天尊殿鐘・旧竜翔寺鐘(藤原国吉)

普門禅寺と天尊寺の梵鐘の特徴はほぼ同じで、特に撞座(撞木で打つ部分)は、全く同じ蓮華文なので、同じ型から鋳型を作ったことがわかります。



撞座(左から旧普門寺鐘・旧天尊殿鐘・旧竜翔寺鐘)

●旧大安禅寺鐘・旧天妃宮鐘(藤原国光)

撞座が蓮華文、竜頭は牙が太め。下帯は狭く、上にある草との間に唐草を表しています。



撞座と竜頭(左:旧大安禅寺鐘・右:旧天妃宮鐘)

●旧永福寺鐘(藤原国義)・旧霊応寺鐘

旧霊応寺鐘は作者不明ですが、竜頭は同じ木型を用いた可能性があり、また胴の下端で縦帯が貫通しない帯の部分を広く取っている点と同じなので、藤原国義作の可能性がります。



竜頭と下帯(左:旧永福寺・右:旧霊応寺)